

令和 7 年度 園の自己評価 《 未来たけのこ認定こども園 》

	評価 (1~5)	今年度の状況	
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	5	子どもたちのやりたい気持ちを受け止め、一緒に行いながら、安心して取り組めるよう見守ることで、自信へと繋がっていった。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	5	子どもたちの姿や興味に合わせて環境を見直し整えることで、自分たちで工夫して遊べるように努めた。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	5	日々の園生活の中で様々な経験をしていくことで、自発的に遊びへと展開する姿があった。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4	子どもたち一人ひとりの発達や特性を、クラス内だけでなく全職員が理解できるように情報共有することで、安心・安全に遊び、生活できるようにした。
	活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている	4	3つの資質・能力が育まれるように指導計画を立て、その目標に向けて少しずつ意識をしながら保育を進めている。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	4	育って欲しい10の姿を念頭におきながら保育を進め、少しずつ意識をもって保育に向かっている。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	5	小学校との連絡会に参加し、お互い情報交換をすることができた。
健康支援	学校保健計画に沿った保健活動を行う	5	園児の健康状態に留意し、季節に応じた感染症対策や熱中症対策を通して健康に過ごせた。
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	クラス担任による検温・視診を行い、平常とは異なる状態がみられた時は、情報共有し対応に努めた。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	発熱がみられた時は、事務室にて再検をしたり、受傷時はビデオにて状況確認をして、迎えの依頼や病院受診を行った。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	5	入園・進級時、保護者に保健調査票を記入していただき、感染症罹患後は、登園届の提出をお願いしている。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	季節に応じた感染症の症状や予防策、生活リズムの大切さ、園内の感染症の状況などを発信した。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	ほけんだよりやホワイトボードでの掲示、感染症流行時は保育アプリにて配信し、注意喚起を促した。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	5	発熱や発疹がみられる園児は保護者に連絡し、迎えが来るまで事務室看護スペースにて様子を見た。嘔吐処理も適切に行った。
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	乳児クラスは保育アプリにてSIDSチェックを行い、幼児クラスも職員が見守り、室温・環境・睡眠時の体位に気を配った。
AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	4月～6月にかけて職員全員にエビベン・AED講習を行った。年に1回ではなく複数回行うようにして、知識や手技の定着を図っていく。	
食育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	3	計画通りにはいかなかったが、担任と相談しながら、食事のマナーやクッキング等の食育を行うことができた。
	安全、安心な給食やおやつを提供している	5	安心・安全な給食を提供することができた。おやつクオリティーは高く、園児も毎日楽しみにしている。
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	5	毎月新メニューを考え、旬の食材や行事食、郷土料理や外国の料理などを取り入れている。
	栄養だよりにて情報発信をしている	5	食に関する行事の由来や、旬の食材についての情報、給食の様子を毎月保護者の方に配信できた。
	食物アレルギー対応を適切にしている	5	毎月アレルギーの確認表を配布し、給食提供時に、アレルギー受け渡し簿でのチェックと共有を行い、適切に対応することができた。
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	5	園児一人ひとりの成長や家庭での様子を、担任と確認しながら個別に形態を変えて提供した。
環境・衛生	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	5	室内と外の気温差に注意し、温度計を活用しながら過ごしやすい環境設定を心掛けた。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	4	嘔吐の際ははすぐに看護師に知らせ、感染予防に努めながら処理をした。吐物や出血による汚れ物の処理については、再度職員で周知する必要があると感じた。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	5	室内の清掃、玩具の消毒等を毎日行い、清潔な環境を整えるように留意した。
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	備品の消毒は毎日行い、こまめな手洗いを心掛け、一人ひとりが衛生面に配慮するようにした。
災害への備え	学校安全計画・危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5	安全チェック表にて定期的に点検を実施している。また場所や物の危険箇所を日常的にヒヤリハットの報告として職員間で共有し、対応に努めている。修繕が必要な事案に関しては、速やかな対応ができるようにしている。
	危険等発生時対処要領に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	4	避難訓練時の通報、放送担当の役割については毎月変え、園長・副園長・主幹が不在であっても対応できるように取り組んでいる。その際、想定・訓練内容を確認し合い、状況にあった対応ができるように努めている。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	4	訓練簿から各クラスの様子、反省点、改善すべき点、また、全体の避難行動の様子から、次回の実施に向けて反省点を踏まえた内容となるように、園長・副園長・主幹保育教諭が話をして決定している。初期消火については不十分な点があるので取り入れていく。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	保護者にとっても、視覚的に分かりやすいように引き渡し順路、場所を図で示した。職員間でもスムーズに引き渡すことができる用、詳細な計画を作成し、打ち合わせて共通理解を図った。
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	5	備蓄管理表にて、数や保存期間の確認をしている。年度末には、各クラスの非常用持出袋の中身、消費期限の確認をしている。近年災害が多くなり、避難時・後にどんな状況になるのか、ニュース等で把握できるようになってきたので、園児・職員一人につきという視点で、必要な物を改めて検討している。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	散歩先、登園人数、職員配置、残留園児人数確認表の書式を見直し・作成をしたことで、より速やかに把握できるように努めた。また、書類を共有し、各クラス・園内の状況を把握できるようにしている。
事故防止	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	5	土曜出勤日の子どもの少ない日に重点的に点検をし、係で共有した後責任者に報告を行っている。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	4	園外で危険箇所があった場合、園児が安全に遊べる場所へ促し、報告と共有に努める。
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	5	上記も含め、ヒヤリハット又は、未然に防げた事象もクラスで話し合い、共有へどう繋げていっか園内研修を行った。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	4	訪問者には必ず挨拶をし、訪問の目的を聞くなど声をかけている。周知には課題が残る。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている	4	必ず見守る職員を確保するために、各専門リーダーを通じ、日々の人員調整を行っている。
子育て支援	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	5	保育者体験のお知らせを掲示したり、毎日の活動をドキュメンテーションで配信したりすることで興味をもち、多くの方が参加してくださったと思う。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	5	保護者の話を丁寧に聞くことができた。また、必要に応じて上司に相談し、保護者への返答や、職員間で共有を図った。
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5	発達支援施設や小学校と話す機会をもち、連携を図った。引き続き保護者支援を行えるように努める。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	4	園庭開放を利用するご家庭が見られた。園庭開放や、園見学の際に育児相談を受けることがあり、真摯に対応した。
職員向上	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする	5	計画的に園内研修を行い、意見交換や情報共有をすることで、一人ひとりが保育を振り返りながら考える時間を作ることができたと思う。
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	4	キャリアアップは積極的に参加できたが、その他の研修は参加者が偏りがちだった。もう少し資質向上意識を高めて参加できるようにしたい。